

e-ビーフNEWS 北の牧場から

September 2018

十勝の秋

ひんやりとした朝の気温に変わってきました。今朝14℃日中でも20℃に届きません。空気は正に秋ですね。今年是一段と季節が速く進んでいる十勝です。北海道のど真ん中の大雪山系では8月の中旬に初冠雪を記録しました。例年より40日早い記録だそうです。秋雨前節で愚図ついていた雲の合間から見えた青空が抜けるような深紺でした。

外の風景も緑一面からポツリポツリとツタの黄色い葉が目立ち始めました。畑もやっと緑旺盛なつばかりなのに、衣替えつつあります。今年の小麦は昨対の6割と不作でした。その畑に堆肥がまかれプラオで起こされて茶色の変身。やっと伸びてきたデントコーンも背丈不十分で黄色い雄花が満開になっています。豆の葉はモクモクと盛り上がってきましたが、花の咲が今一つ。さてさて収穫時期を迎えて農家のつばやきが聞こえてきます。



活動のお知らせ

- 9月17日(土)…帯広 とかちプラザ 第2回オーガニックヴィレッジ
 9月22～23日(日)…有楽町 国際フォーラム 第3回オーガニックライフスタイルEXPO
 10月5日(金)～6日(土)…十和田市営牧場、市民交流プラザ 第44回日本短角種研究会、枝肉勉強会(十和田食肉センター)
 10月20日(土)…京都大学農学部 畜産システム研究会第32大会 ●肉用牛の哺育・育成方法をめぐって一生涯成績を視野に入れて
 10月31日(水)13時～11月1日(木)…北斗市農業振興センター(函館駅まで車で20分) 第23回北海道肉牛研究会大会
 ●大会内容(仮題) 基調講演「日本版畜産GAPの概要と肉牛農場の取組み」一般財団法人日本GAP協会基準認証部畜産グループ 朝日光久氏
 ●事例紹介「日本版GAPと農場HACCPの取得について」大野ファーム大野泰裕氏ほか 現地検討会 あか牛生産農家
 11月8日(木)…帯広 北海道畜産公社 第5回北海道肉専用種枝肉共励会
 11月8日(木)…帯広 帯広畜産大学 第15回資源循環型肉牛生産シンポジウム 2018

NEWSばか読み

- JA全農 台湾に輸出拡大向けの営業拠点を開設 8/2:本格的
- 7月和牛子牛相場 0.3%安76万円3ヶ月連続安 枝肉安が影響 8/2:肥育農家ももたない
- 鶏卵相場 西日本で相場高 猛暑の影響 8/4:鶏も豚も牛も暑い
- ペット関連ビジネスが拡大 犬用コンタクトレンズや栄養素が好調 8/5:金の使い方
- 貿易統計18年度上期 牛肉、日本酒初めて100億円突破 アジア向け好調8/6:
- 中国遼寧省瀋陽市でアジア初のアフリカ豚コレラ発生 8/7:警戒
- 岩手県遠野市 ビールの里構想でホップ栽培開始 8/7:牛肉にあわせ純国産ビール
- 環境庁 ゲノム編集で一部切り取りはGM技術に該当しない 8/8:検証必要
- 食料自給率カロリーベース最低の38%で横ばい 8/9:誰が真剣に取り掛かっているの
- 気象庁 水蒸気増大で温暖化に伴う気温の上昇に起因 8/10:蒸すね
- マルキン6月 4年ぶりに肉専種で28000円 採算割れ 8/11:続くよ
- TPP11、日欧EPA年初発効 牛肉関税9%時代に 8/11:影響ジワリ
- 農林水産省 新規就農者49歳以下4年連続で2万人超す全体では減少傾向 8/15:

- 農林水産省 概算要求でスマート農業支援に重点施策 8/18:カッコつけないと
- 生乳需要にひっ迫感 北海道牧草不作や道外猛暑で 8/18:この影響続く
- 政府 廃プラ削減で数値目標 海洋汚染深刻 8/18:農業者自ら対策必要
- 乳検協 17年度乳めす出生26万頭と4年ぶりに大幅増 8/20:底打ったか
- 農林水産省16年度県別自給率で秋田1位192%北海道天候不順で2位185% 8/20:お天道様にはかなわない
- 7月生乳の伸びが鈍化 道外猛暑で落ち込む 8/20:この暑さ牛にも大いに影響
- 猛暑 各スーパー・コンビニの売上に貢献 8/22:異常気象も需要変化
- トラクター自動操舵やGPSガイダンスの出荷の3,000台と好調 8/22:自動化ははい
- 18年度訪日客3300万人と過去最高の見通し 8/22:好調だね
- JA静岡 パルシステム連合と食材宅配で提携 全国初 8/22:協同組合の協働
- 新日鉄住金 再エネ農業組み合わせで地域の活性化提案 8/25:再エネ農業はキー
- 加工食の原料原産地表示施行1年で畜産物表示5%と最低 8/27:今後強化
- 山形県営農センター 和牛経産牛のモミサイレージ肥育が好調 8/27:おいしいよ
- 福島大学 農学部開設 国内では新設40年ぶり 8/29:これからは農業だよ

東京直近NEWS (8/30 Shi-REPORT)

ホルス 9月枝肉相場は上げ基調で推移。慢性的な頭数の不足から上場頭数少なく市場では高値続き。販売については、猛暑の影響が大きく現時点では需要低迷が続いている。今後気温の低下やフェアなどの時期に入り、需要回復期待も絶対頭数の不足から供給数量に不安あり、需給バランスの維持が大きな課題。これからの需要期対応が、来年以降のホルス需給の物差しになっていくと思われる。ホルスのみ去勢がマーケットに定着しているが、今後は雌もマーケットに定着していく可能性も。

経産牛 経産牛相場は高値安定状況。猛暑から淘汰含めて、一時的に回りと畜頭数増加していると聞き及ぶが、産地現場では回りに回復しておらず、取扱い頭数確保も苦慮している。販売については夏季休暇や猛暑から需要減退傾向も、それ以上に取扱い頭数落ち込んでおり不足感変わらず、欠品や納品遅延継続。挽き材についても、需要が伸びているわけではないが産地の取扱い頭数減っており在庫の切り崩しから不足傾向。今後、歳暮やギフト原料の需要が高まることから更なる不足感が加速する可能性強い。

左先生の畜産学研究NEWS

環境リサイクル牛肉協議会は2000年に設立し、e-ビーふ認証により資源循環型牛肉生産の啓蒙・普及が目標です。この考えは2030年を達成目標とする国連の「持続可能な開発目標:SDGs」の取組とも共通しています。協議会の趣旨を具体的に事業化して畜産コンサルティング「北の牧場舎」が乳牛受胎支援と肥育事業を開始しました。乳牛の妊娠は酪農にとって重要課題ですが、農家は乳量増加の追求と大規模化に追われ、不妊雌牛への対応が不十分で廃用牛にする傾向があります。新聞報道では、不妊乳用種雌牛を委託料でおよそ90日預かり、鹿児島から導入した黒毛和種雄牛と自然交配させ、受胎すれば酪農家に引き取って貰い、不受胎ならば買い取って5ヶ月間リサイクル飼料で肥育、出荷するというものです。小規模で究極の資源循環ですが、工業国の日本で牛肉生産を持続させることに意義があります。フェアトレードの精神で国産牛肉が継続販売されることを願っています。e-ビーふNews57号の学術情報は以下の通りです。

1. 北海道畜草学会報 6(2) 2018第7回大会講演要旨

I-21 北海道池田町産褐毛和種におけるオレイン酸と画像解析形質との関連性(山本朝子他、帯畜大)

褐毛和種「いけだ牛」を8年間1,773頭について画像解析し、枝肉成績や脂肪酸組成の記録との関連を検討しました。肥育月齢の増加と共にオレイン酸(C18:1%)が増し、BCSが高い枝肉のC18:1%は低下し、BFS値の低い個体ではC18:1%が低い傾向があります。

II-8 台風に負けない飼料用とうもろこし栽培(丹羽おり恵他、釧路農改中西部支)

飼料用とうもろこしの近年の強風による倒伏被害防止策として栽培本数の削減効果を検討しました。10a当たりの栽培本数を7,000~9,000本台で3水準設定すると釧路中西部では7,000~7,500本/10aで着穂高が低く、桿が太く、根張りも良く耐倒伏性が高まり、TDN収量も確保できることが示されました。

2. 肉用牛研究会報#105:7-12,(2018.7)

阿蘇地域の褐毛和種における冬季の混合飼料補給が分娩後のBCSおよび体重に及ぼす影響(邊見広一郎他、宮崎大農)

阿蘇地域で冬季(1-4月)に分娩の褐毛和種雌牛にタチアオバのWCSにフスマやビール粕等を加えた混合飼料を90日間1.1kgから1.5kg/回/頭に増給すると母牛体重が増し、分娩後のBCS(ボディコンディションスコア)の推移が改善し、新生子牛の体重を増加させる可能性も示唆されました。

3. 畜産技術#758,759,2018.7.8

1) 7, 28-31.技術情報: 食肉処理施設の現状と課題-1(細見隆夫、公財:日本食肉生産技術開発セ)

日本の食肉処理施設は約180カ所、いずれも処理規模が小さく、現状は、施設の老朽化と現場職員の実施技術の継承と改善に留まっています。食肉の国際化への対応として施設整備や安定した処理施設の経営や継続が重要課題です。

2) 8,9-15 技術情報: と畜・解体技術の現状と課題-2(細見隆夫、公財:日本食肉生産技術開発セ)

と畜解体行程は、「家畜の取扱工程」「と畜工程」「解体工程」に分けられますが、これらの過程でアニマルウェルフェアへの対応や家畜へのストレス解放を通じて食肉の高品質で病原性微生物の汚染のない安全な生産体制の構築が大切な課題です。

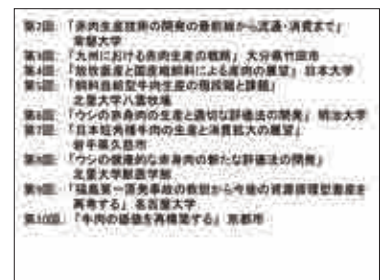
3) 8,28-32国内情報4: 牛ゲノムを活用した新たな育種戦略-4(2018年座談会:穴田勝人、大竹匡巳、大山憲二、小林栄治、柴田正貴、杉本喜憲、俵積田守、安森隆則)

畜産技術協会企画座談会の続編です。今後の牛ゲノム育種の方向として黒毛和種では飼料の利用性、繁殖性、遺伝的多様性の確保等が考えられ、特に遺伝的多様性確保には和牛チップによるSNP情報のブルーピングによる利用が可能です。

国産牛 NEWS

日本の赤身牛肉生産とその流通 全4回シリーズ②

弘前大学生命科学部 松崎正敏教授(日本産肉研究会会長)



内容を詳しく知りたい方は、データ送信しますので事務局までご連絡ください